

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所概要(事業所記入)			
事業所番号	4471200123		
法人名	特定非営利活動法人 CSOおおいた		
事業所名	地域福祉支援センター フェリス千歳		
所在地	大分県豊後大野市千歳町前田1160番地		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町村受理日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471200123&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府番館 1F
訪問調査日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者の「個性」・「自己決定」・「選択の自由」などの意思を尊重し、望ましいホームでの生活が送れるように支援しています。
- ②職員は利用者の立場に立ち、考え、話し合いを重ねることにより、大切な家族の一員であることを踏まえた支援を提供しています。
- ③地域、ご家族、関係機関の協力を仰ぎ、利用者の方々にとって安心できる住まいとなるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は静かで自然豊かな環境に位置しています。ホームの棟続きに有料老人ホーム等複数の事業所が併設されており、利用者に満足のいくサービスの提供と、ホールを地域に開放することにより地域交流にも力を入れています。利用者は広い庭を散歩する機会を多くとり下肢筋力低下予防をし、身体機能の維持向上を図ったり、外でお茶を飲むことでリラックス効果を楽しんだりゆったりとした生活を送る環境が整っています。又理念の実践への管理者、職員の誠実な取り組みが利用者相互の、そして職員間の協調や利用者への優しさ、思いやりとなって実を結んでいます。管理者は働きやすい職場作りに努力され、職員はプロ意識を持つことでサービスの質の向上に真摯に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内の見やすい所に掲示し、日々実践に取り組んでいる。	理念は地域や家族に浸透するようにパンフレットや書類に記載され、ホールに見やすいよう掲示されています。全職員間では会議等で確認、意識づけを行い理念の実践に向け取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会費を納付し、回覧板等を廻してもらっている。地域のお祭りに参加したり、地域のボランティアグループとの交流を行っている。	自治会に入会しており情報の交換もでき、保育園、学校、地域の行事に積極的に参加し活発な地域交流を図っています。又事業所の新聞(フェリスの種)を全戸に配布し、情報の提供を行ったり、認知症について、地域の方から相談を受けたりと地域貢献を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護科学生の体験学習受け入れを行っている。また、地区への個別訪問を行い、事業所説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者の意見を積極的に取り入れ、会議やミーティング等で話し合い、改善に努めている。	運営推進会議は出席者に、よりホームの事を理解してもらうために行事(夏祭り等)の当日に併せて開催しています。会議での話し合いを通して得られた助言や意見をサービスの質の確保、向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に意見交換を行っている。また、必要に応じて市役所に出向いたり、電話等で意見を頂いている。	運営推進会議への出席の際に、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え情報の共有を図っています。介護保険課に出向き相談や指導を仰ぐ等市との連携に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行い、全職員が正しく理解できるよう努めている。	身体拘束禁止の対象になる具体的な行為については、全職員が研修の中で正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関等には安全対策や感染防止対策を目的に必要最低限の施錠を行っています。	徘徊の利用者の気配を職員が見落さない見守りや、連携プレーを行い抑圧感のない、安全に暮らせる工夫を重ね、日中は開錠できるよう職員の努力を期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から職員間で話し合い、虐待への注意をはらい、その防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、研修会資料の回覧をしている。また、業務マニュアルの熟読を促したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の見学を行ってもらい、ご家族様やご本人様の理解を得て契約を行っている。また、疑問等にはいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽に意見を出してもらえるような関係づくりを行っている。また、ご家族にはサービスの質を向上させるためのアンケートを定期的に行っている。	家族が面会に訪れた時や電話での会話、アンケートの実施をする中で要望、意見を聞き取り確認をしています。運営推進会議で出された意見は、前向きに受け止め運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理会議、スタッフ会議、ミーティング等で意見交換を行っている。起案書により積極的な意見を取り入れている。	日々のケア実践を通して、職員各自の気付きを朝夕の申し送り時に起案書で提出し、ミーティングで積極的に検討されケアの充実と運営の反映に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規則を基に、就業環境の整備に努め、働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部、内部研修に参加し、質の向上に努めている。資格取得を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関や専門学校主催の研修会に積極的に参加をしている。また、随時情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時にスタッフ間で意見交換を行い、安心して生活できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にてコミュニケーションをとり、ご家族様が安心して任せて頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握を行い、必要であれば他のサービス提供機関とも連携して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩との認識に立ち、家族の一員だという思いで介護に携わるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には利用者様の近況報告を文書でお知らせし、必要に応じて面会や外出、病院受診等に協力してもらえよう関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご家族様の協力のもと、自宅への帰宅や近隣への訪問が自由に行えるよう支援をしている。	馴染みの美容院に行く人、家族の協力で墓参りに行く人など、一人ひとりの生活環境を尊重し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリや行事を通じて関わり合いがもてるように支援している。また、無理のないつきあいができるよう見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時も、必要に応じて相談援助を行い、円滑にサービス移行ができるよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や介助の場面で意向の把握に努め、意思表示が困難な利用者様に対してはご本人様の立場に立ち、ご家族様の意向も踏まえ把握に努めている。	入所時の面接や日常のコミュニケーション、利用者、家族のアンケートの実施を通して一人ひとりの思いや意向、趣味の把握に努めています。本人の視点に立って検討し、職員間で情報を共有しケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や担当介護支援専門員等よりご本人様の生活歴等を聞き取るとともに、情報提供書をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りやバイタルチェックで心身状態の把握に努めている。また、入居者様個々の生活リズムを大切に、支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人様の希望や意向を聞いたうえで、計画作成担当者と他スタッフで話し合い介護計画を作成している。	介護計画策定には、日々の生活の中での気づきを大切にしており、職員の視点からの介護計画ではなく、利用者、家族の意向を聞き本人主体の暮らしを反映した介護計画になっています。又定期的な評価、見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や介護記録(カルテ)・ケアプランチェック表により、職員全員が情報を共有できるように努め、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズ等にもできるだけ応えることができるよう、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らせるよう運営推進会議等で意見交換を行っている。避難訓練や地区行事への参加、積極的なボランティア、研修、実習の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1～2回の往診を受けている。また希望に応じて適切な医療機関への受診支援を行っている。	利用者や家族の意向に添った医療機関への受診が行われています。受診結果や経過等の身体状態は、全職員が把握しており、支援に繋がっています。身体状況等は、利用者や家族と職員の共有が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や協力機関の看護師と連携して、入居者様の心身の状況の変化に即対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、相談員等との連絡を密にし、入院中の状況把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針(マニュアル)を作成し、主治医やご家族様と十分な話し合いを行い、方針を決定している。	利用者や家族の意見・希望の把握に努めています。個々の意向を捉え、医療機関との連携に取り組む中で、家族等との話し合いや意思確認が行なわれています。	法人として、利用者の終末期の支援に取り組んでいます。施設における最大限の援助と個々の職員の意向について、全職員の周知による、チームとしての取り組みに更なる期待が持たれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会を定期的に行っている。緊急連絡網、緊急対応マニュアルを整備しスタッフ会議等で徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災非常時対応マニュアルを整備し、年2回の消防防災訓練を行っている。災害対応マニュアル、緊急連絡網を整備し、防災委員会を中心に徹底を図っている。また、防災訓練には地域消防団の方々の参加をいただいている。	防災訓練(火災)を運営推進委員会の当日に併せて実施する中で、地域の消防団の参加協力の体制も作られています。夜間の職員呼び出し訓練も行なわれており、危機感を持ちながら職員が一体となり安全対策に取り組んでいる様子が伺えます。	非常災害時(自然災害)においても、全職員で協議を重ね、より迅速で安全に配慮した対応に向け、検討されることに期待します。また、地域住民との協力体制作りにも期待が持たれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれの性格や生活歴に合わせた言葉かけや対応に努めている。また介助に際しては無理強いしないように努めている。	個性を尊重し、その人らしさを大切にしながら、利用者本位の介護に努めています。利用者一人ひとりの思いや、家族の希望等を全職員で共有し、充実した援助に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がその方らしく生活が送れるよう、可能な限り自己決定を重視した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら利用者様の意思を尊重し、それぞれのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の身だしなみについては、日常的に配慮している。2ヶ月に1度の美容サービスをおこなっているが、行きつけの美容室等へも自由に行けるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態にあわせた食事の提供を行っている。リビングで楽しみを持ちながら食事作りへの参加もできるよう支援をしている。	管理栄養士の献立に施設の栄養士がアレンジを加えており、利用者の嗜好や、個々の栄養のバランス・調理方法を考慮した食事作りに取り組んでいます。ゆったりと、穏やかな雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックは毎食ごとに行い、体調の変化が無いよう確認を行っている。食事、水分量の少ない方には高カロリー食の提供を行っている。また、嚥下障害のある方についてはとろみ食の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様の状態に応じた器具を使い、口腔ケアを行っている。口腔ケアについての内部研修会(講師を市にお願いして)を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄状況を記録し、利用者様の排泄パターンの把握に努め、排泄の自立支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握やトイレサイン(何気ない日常の行動やしぐさ等)への気付きを大切にしています。羞恥心に配慮しながら、個々の利用者の特徴を考慮した支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックや植物繊維を多く含んだ食事の提供を行っている。また散歩や体操を行い腸の働きが過発になるよう支援している。必要な方には医師より処方された下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、利用者様より希望があれば意向に合わせた入浴を心がけている。	個々の利用者の清潔保持の支援に向け、積極的に取り組んでいます。職員は、一人ひとりの利用者の思いを共有し、チームワーク(声かけ等)の中で、安心して楽しめる介護に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを重視し、休息していただいている。昼夜逆転など精神的に不安がないように言葉かけをし、気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連絡を密にし、管理者(看護師)、看護職員を中心として服薬管理を行っている。ケース記録に薬の説明書をファイルし、すぐに確認できるようにしている。薬内容の変更があった場合などは全職員に周知徹底して状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の力を発揮できるよう、生活リハビリ(洗濯物たたみや新聞折り等)を通して、楽しみをもって過ごせるよう支援をしている。また、散歩やドライブの時間をつくり気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	企画委員会を中心として、ドライブや花見などを企画し外出している。希望があれば買い物支援等をおこなっている。ご家族様やご本人様より希望があれば自由な外出、外泊をしていただいている。	散歩や菜園づくり(園芸委員会を中心としての作業)、ベランダでのティタイム等、日常的な気分転換を考慮する中で、日光浴・外気浴の支援に努めています。また、ドライブ等の外出支援にも取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の預かりは行っていない。利用者様が金銭管理を行っている場合は、トラブルにならないように全職員が配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から電話使用の希望があれば、自由に使ってもらっている。郵便物についてはお部屋まで届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にするよう、季節の花をテーブル等にかざっている。リビングにプラズマクラスター(空気清浄機)を設置し、快適な空間が保てるように配慮している。	光彩豊かなベランダや庭は、利用者と共に過ごす場として利用されています。居間は、共同作品(利用者と職員)で飾られ、テーブルは利用者の状況に応じて配置しており、豊かな暮らしへの援助に取り組む姿勢が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを設置し、利用者様同士コミュニケーションがとれるよう配慮している。また、独りの時間が取れるよう常に気づかいを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前になじみの品物をできるだけ持参してもらおう話している。お部屋が居心地の良い空間になるよう配慮している。	布団や思い出の品などの持込み利用を働きかけています。全職員で、安全で清潔なリラックスできる居室づくりに取り組む中で、担当制を設け、個々の利用者の暮らしやすさへの配慮にも努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てでバリアフリー設計である。トイレ位置やお部屋の位置がわかりやすいように工夫をしている。		